

北海道室蘭市（視察日：令和元年10月16日）

生涯学習センター整備運営事業について

1 室蘭市の概要

開港140年を超える天然の良港を擁し、製鉄、製鋼等の製造業を基幹産業とする工業都市であり、室蘭・東室蘭駅を中心とする市街地があるが他の地方都市同様人口減少問題も抱えており、都市再編の必要性に迫られている。

2 視察目的

老朽化に加え、耐震性の基本性能不足の問題を抱える複数の公共施設の機能集約による再整備、及び新たな市民ニーズに対応する多世代交流の拠点づくりを進めており、小千谷市が現在取り組んでいる小千谷総合病院跡地の整備計画において、今後の進め方、ニーズの取り入れ方等の先進事例を参考にする価値があると判断しました。

3 視察内容

生涯学習センターきらん整備運営にあたりDBO方式を採用し整備費の抑制、市民サービスの向上、民間事業の誘致を実現しており、その詳細について直接お話を聞かせていただくと共に実際の運営状況等を視察する。

4 所感

生涯学習センター整備にあたり市民意見集約をワークショップ、意見交換会、アンケート等の方法で行い、それを反映した施設の整備を行ったということですが、実際に運営していくなかでの現在の新たな発見、展開等を知りたいと思っていました。一階にあるキッズパークは子ども一人200円、同伴者無料という市の施設としては珍しい有料施設ではありますが、これは有料でも清潔で安心な施設にしてほしいとの要望からで、その結果施設の乱用防止効果もあると感じました。他にカフェの運営を地元有名店のコーヒー自販機と軽食自販機にしたり、軽運動施設の利用等当初想定していた運営状況とは違う状況も生まれてきているとのこと。そして個人的には一番興味があった余剰地活用事業の敷地内での民間宿泊施設との共存状態について現状を知ることができ、有意義な視察であったと思います。

将来的な人口減に対応するべく施設の規模等も考慮している点についても、先々を考慮しての判断だと思えます。しかし、減少率がかなり多く考慮されていることについては、現

実的なのかもしれません、減少ありきで考えることについては少し残念な気がしました。いずれにしても市民の声をよく聞き、よく考えられた建物と施設内容だと思いました。

北海道旭川市（視察日：令和元年10月17日）

移住定住促進の取り組みについて

1 旭川市の概要

北海道の中央に位置し、人口33万人（高齢化率33.5%）を超える道内第二の都市。道北の経済、産業、文化の中心であり、医療・福祉・商業・教育などの都市機能も充実している。国道や鉄道、高速道路、空港も整備されており、道内物流の拠点となっている。稲作などの農業も盛んで、食料品や紙パルプなどの製造業、旭川家具をはじめとした木工、機械金属などものづくり産業が集積している。観光面でも国内外から年間500万人の観光客が訪れている。地震などの自然災害が少ない。

2 視察目的

北海道エリアで「住みたい田舎」2年連続ランキング1位である旭川市の移住定住事業について視察し、同じ雪国としての小千谷市の移住定住促進につながる施策を学ぶ。

3 視察内容

- ・移住ワンストップ窓口、FB、SNSの状況について
→地域おこし協力隊の一人がゲストハウス開業してアウトドアツアーも行っており、そこも民間サイドのワンストップ窓口の一つ。
Facebookは3年前から開設。「旭川移住計画」。
オフィシャルなものとして運用している。
- ・移住促進協議会の動きやサポート会員の申し込み状況について
→行政単独ではない動きを出したかった。
圏域の商売を維持していくための民間側のメリットもある。協議会気分でもお願いしてもダメ。やりながらアプローチ、意識の共有化を図っていった。
構成員の特徴はいわゆる顔役ではない。民間事業所、特に宅建協会による住居探しアドバイスの機能、日本FP協会などの移住における資金計画などのアドバイス機能を備えている。
スピーディーに動ける仕組みを目指している。
サポーター申込書にフリーで何をやりたいか書ける記入欄設けたい。
- ・転入者の会や交流会の実現について
→Iターン層は交流するコミュニティを持たないのでそういう場を設けることが大切。
- ・移住生活体験住宅の利用について

- 3軒設置しており、実際住んで移住した実績あり。
- ・アサヒカワライドやセカンドハウス、別荘などでの交流人口の状況について
 - 「ONE DAY JOB TOUR」の開催など企画している。
- ・移住定住に関する補助、助成制度について
 - 担当する地域振興部の課が出来て4年目。
 - 最初の一年は集まっていて生かしきれていなかったデータを分析することから。
 - ターゲットはどこかなど、第8次総合計画、総合戦略に落とし込むところから始めた。
 - 一般的な移住定住の金銭シミュレーションを例示してもダメ。
 - 一人一人の希望者に、ファイナンシャルプランナーから実際のお金の状況をシミュレーションし、見える化を図っている。
- ・移住ガイド誌「旭川らしさ」
 - 雪対策、子育て・教育施策などをアピールしている。CCRCはあくまでターゲット層の1つという考え方。

4 所感

北海道の自治体の中でも移住希望が多く雪国のアクティビティ溢れる環境である旭川市においても、移住交流促進に苦闘しており、市職員の採用も交流人口増加の一環として、他県会場での採用試験実施を行うなど、工夫されているお話を伺えた。

また、人口減や公共交通網の縮小に伴い、病院施設が充実している旭川市に周辺地域からの年配者の人口流入があるとのこと。

しかし、若者や労働人口増の増加にはつながらず、移住希望者には、モデルプランではなく、ソーシャルプランナーからその希望者、希望世帯の個別のソーシャルプランを立ててもらい、移住後の生活・経済状況を把握してもらい後押しをしているなど、イメージではなく、移住の実際を提示することで移住の後押しをしようとする動きを感じた。

生活コストの見える化で首都圏との違いを明確化していくこと、移住者の目線で、魅力をアピールしている。

旭川に縁がある人たちの移住にも力を入れ、一度育ったところを出て、生活し、故郷の良さを再発見して帰りたくなった人たちから、旭川の良さをアピールしてもらうことも行っている。

また、データをどう活かすのかには、部署、担当者の仕事や役割分担の明確化の必要性という話が腑に落ちた。

首都圏から道北の極寒地に企業が進出することへも、旭川市が地震や洪水など、自然災害の少ない安心・安全な地域であることを最大限アピールしている。

地域振興部が4年前に発足して移住定住促進を実施しており、その中で、地域おこし協力隊の活動や転入者の会の活動、宅建協会の不動産情報サイト等、とてもきめ細かな事業を多岐にわたって展開している。入口から中身までサポートすることにより、問題点の洗い出し、今後の方向性・推進内容の検討等それぞれの時点でのステップアップに反映されている。

移住定住政策の根幹は、やはり「仕事」と「住居」であることも再確認できた。潜在予備軍といわれる層のニーズ、情報を改めて整理することにより、マーケティングの基本中の基本であるセグメントの徹底化をきちんと行っている印象がある。

北海道深川市（視察日：令和元年10月17日）

スポーツ合宿によるまちづくりと「学びと集いの郷」について

1 深川市の概要

石狩平野の最北部に位置し、市の中心部を石狩川が流れ、周辺には水田が広がる。縄文時代の遺跡も残る歴史ある街。また農業を中心とするが、りんごなど果樹の栽培にも取り組み、シールドを作るなど新たな街の魅力を創り出そうとしている。

2 視察目的

スポーツ合宿によるまちづくりの実践内容の学習を目的とし、計画から実践、運営内容を学習することにより、小千谷市の特に類似施設である「おぢゃ〜る」へのフィードバックやスポーツ合宿そのものの運営ノウハウ、それによる市内他施設への波及効果や誘致による問題点の洗い出しについて勉強する。

3 視察内容

学びと集いの郷音江広里交流館「エフパシオ」と陸上競技場の見学と担当者からの施設についての説明を受け、地域一体となったスポーツ都市宣言の運営状況や問題点を研修する。

2 所感

学びと集いの郷エフパシオについては廃校になった中学校の再利用ということで全国的に多くみられる施設内容であったと思いました。しかし、その施設を改修するにあたり、スポーツ合宿での利用を基本とした想定に基づき、多くの知恵や工夫がされていると感じました。例えばトレーニングルームの設置やその内容について実際に合宿で使っていた際に聞かれた意見を基に器具を揃えたり、浴槽もアイシングに対応したものを用意する等多くの意見を参考にし、使い勝手がよいものになっていると感じました。

市内にある競技場ともアクセスが良く利用しやすい環境になっていることも感じました。田んぼの中の施設ということでよさこいや音楽の合宿等でも利用が出来ることも地の利を活かした考え方だと思います。特別な防音対策をしなくても体育館はそのままで最小

限にしか手を加えなくても利用でき、そこも利点だと感じました。

あるものを有効利用し目的を明確にして開発を進める。理想的な再開発だと感じました。